

第6回「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会」の概要

<協議会の趣旨>

第5回協議会で承認を得た「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画（素案）」を基に、国土交通省による計画審査及びパブリックコメントの結果を踏まえ作成した「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画（案）」を協議内容とする、第6回「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進協議会」を以下のとおり開催しました。

<概要>

- ・日 時：令和6年3月25日（月）午前10時から午前11時30分まで
- ・場 所：仙台国際センター会議棟2階大会議室「橘」
※対面とweb参加の併用開催
- ・出席者：学識経験者、経済団体、港湾関係者、国・関係市町（全42名）
- ・内 容：国土交通省の審査及びパブリックコメントを踏まえた計画の修正事項、仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画（案）等について

<議事概要>

- ①国土交通省の審査結果及び指摘事項に対する修正事項について
- ②パブリックコメントの結果及び意見に対する対応方針について
- ③「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画（案）」について

上記3点について審議の結果、構成員から承認を得ました。

<今後に向けた意見等>

- ・温室効果ガス削減目標として2030年度までに50%（160万トン）削減するとなっているが、現状の累積削減量は23万トンとなっている。今後、如何に減らしていくのか大切であり、削減に向けた部会での活動に期待する。
- ・脱炭素の取り組みは重要であると認識している。目標スケジュールを明確にするのも大切だが、潜在するリスクも計画に盛り込むことも必要である。
- ・港湾管理者や各企業の責任分担を全体で議論すべきである。
- ・パブコメにも意見としてあったが、民間の設備投資が大きくなる。これに対し、具体的な補助金がないと、2030年度に50%、2050年までにカーボンニュートラル（CN）は厳しいと思う。CNのためだけに設備投資は行えない。
- ・トラック輸送の視点として、2024年問題に伴うモーダルシフトや業務効率化が脱炭素化に密接に関係してくる。
- ・企業の努力でできることは限られている。メーカー技術革新や行政からの補助金制度が不可欠である。
- ・短期的に何ができるか技術動向を捉えていくことが重要。今後の部会による取組の深掘りが実行性向上につながるのでは。

- ・ CNに向けては、燃料・電力コスト等の低減が非常に大きな課題である。
- ・ 現在の設備すべてを脱炭素化することは、貴重な資産が失われることにもなる。既存設備を有効活用する視点も重要である。
- ・ 今後の協議会において、企業間連携が強化されるような議論を期待する。
- ・ 脱炭素に向けて水素・アンモニア等の次世代エネルギーの活用に向けた技術開発及びサプライチェーンの整備が重要である。
- ・ 今後は、技術進展を見極めながら、計画の精度を上げていく努力や工夫が求められる。
- ・ 生産性向上や効率化の取り組みそのものが、地球環境に貢献する仕組み作りが必要である。

(開催状況)



<その他>

- ・ 第6回協議会にて「仙台塩釜港港湾脱炭素化推進計画（案）」が承認されたことから、令和6年3月29日に計画を策定し、宮城県ホームページにて公表しました。